

## 心の栄養剤No148-1 「クリスマスプレゼント」

小学生のころ、家が超絶貧乏でクリスマスプレゼントをもらったことがなかった。

すでにサンタクロースを信じる歳ではなかったけど、毎年何をもらう（もらった）かで盛り上がる友達がうらやましくて、その年は自分もプレゼントがほしいとねだりまくった。

母親は困った顔をしてた。今思えば、年を越すのもやっとで余計な金なんてあるわけなかった。

でも25日の朝、枕元に赤い封筒を見つけた。

開けると、中には小切手。額面は3000円。

もちろん本物じゃない。母親の手作りだった。

けど「〇〇(←わが家の名字)銀行」とかきちんと印字されてて、子供の目にはなかなか本格的に見えた。

プレゼントが買えなかった母親の苦肉の策だったが、

小切手とかかっこいい！と思ってめちゃくちゃ喜んだ。

何よりクリスマスプレゼントがもらえたのが嬉しかった。

もったいなくて引き替ええないまま、そのうち存在を忘れてそれっきり。

最近ふと思い出して、母親に「あれって引き替えに来ないところまで計算してたんでしょ〜？」と笑いながら聞いてみた。

そしたら母親がタンスの奥からポチ袋出してきた。

**鉛筆で「小切手用」って書かれてて、中には千円札と500円玉で合計3000円入ってた。**

クリスマスには間に合わなくてプレゼントは買えなかったけど、その後でいつ小切手を引き替えに来てもいいように準備してたんだよ、って言われた。

日々の生活もままならない中、この3000円を使わずに取っておくことが、当時どれほど大変だったか。

**別に不渡りでも全然良かったのに。そう思って泣けた。**

## 心の栄養剤No148-2 「子供がサンタ」

シングルマザーとして子育てを頑張る2児の母

昼は工場の事務、夜はコンビニで働いている。それでも生活は苦しく娘たちに好きな物を買ってあげられるのは誕生日とクリスマスだけ

そして12月23日、「2人とも今年一年良い子にしてたから、またサンタさんからカードが届きました」クリスマスに欲しいプレゼントを書くカードを姉妹に渡した

「わたしプリキュアの変身セットにする」

「ユキナはどうするの？クマさんのぬいぐるみが欲しいってずっと言ってたでしょ？書いていちゃいなさいよ」

「う〜ん、ちょっと考える」

その日の夜…次女：ユキナのカードを確認すると

“サンタさんへ お母さんがいつも肩が痛いって言うてるから、マッサージ機が欲しいです ユキナより”

12月24日の夜、姉妹が寝静まった枕元に長女には希望通りプリキュアの変身セットを、そして次女には、前から欲しがっていたクマさんのぬいぐるみを買ってあげた。12月25日の朝、長女は大喜びで母に報告、しかし起きているはずのユキナが部屋から出てこない

「ユキナ どうしたの？サンタさんのプレゼント欲しいのと違ったの？」

**「サンタさんから貰ったよ。ハイこれ」**

**ユキナが渡したのは“肩たたき券”**

「サンタさんにお問い合わせしたらくれたの。良かったね お母さん いつでも使っていいからね」

**「ユキナありがとう」**

**「違うよ サンタさんにお礼 いいなよ」**

「クリスマス」は、子供さん達にとってはもちろん、親も家族全員にとっての一年の大イベントになっていると思います。

私自身「クリスマス」という言葉に、いくつになっても嬉しさ～楽しさと共に何故か～せつなく、甘酸っぱいような～独特な不思議な響きを感じます。

皆様～すべての御家族が、笑顔と感動に満ちた一生の思い出となる「クリスマス」となれます事を、心より願い祈ってます。

※私も早く孫にプレゼントを選んであげる日を待ち遠しいで〜す(笑)

